

活動名 エコ工作教室	団体名	広島環境サポーターネットワーク
	地域	広島県広島市
	代表者	常任幹事 増村 浩子
	支援金額	30万円
活動概要		
<p>人類の課題、地球温暖化。「環境の日ひろしま大会」などの環境イベントのブースにおいて「エコ工作教室」として実施し、廃棄物や自然物を利用した工作を行い、資源の大切さや自然の大切さを学び、もったいないの心を育て、ものづくりの楽しさを体験し、地球温暖化について考えました。また、「出前環境講座」として学校教育や、公民館等においても、牛乳パックやペットボトルなど、子ども達の身近な廃棄物を利用しておもちゃなど使用可能なものを作り、誰にでも参加でき誰でもわかりやすい教室を開き、「ゴミと温暖化」といった身近なテーマで地球環境について啓発運動をしました。そして地球温暖化の仕組みを解りやすく説明し、私たちの暮らしからできる身近なエコライフを推進しました。</p> <p>◆実施時期： 期間：平成21年6月7日～平成22年2月25日（11回） 広島県庁前広場・広島市中小企業会館・イズミゆめタウン広島店・ 広島ビックアーチ・エールエール地下広場・海田町立小学校・広島市立大塚小学校・ 広島市立井口明神小学校・広島市立伴東小学校・亀山児童館</p> <p>◆参加人数： 参加総人員 2,981名（実施回数 11回） （サポーター延人数合計 110名 工作参加者延人数合計 2,871名）</p>		



《カルチャー＆エコフェスティバルinゆめタウン広島》



《給食の牛乳パックから紙トンボ作り》



《小学校環境出前講座 竹笛作り》



《手回し発電機で豆球を光らせ、エネルギー体験》

◆実施に伴う効果

- ①3年続けてマツダ財団から支援を受けて、団体内での活動が盛んになり、備品や道具類が揃い出前講座のバリエーションが膨らみ活動に充実感がありました。
- ②イベント等参加者に工作材料を負担させずに実施でき、たくさんの参加者が増えました。昨年の約2倍近い人が参加しました。
(参加合計人数 平成19年1,605名 平成20年度1,575名 平成21年度2,981名)
 - ・手回し発電によるオリジナルな比較実験機を使って実験をしましたが、参加者に白熱球と蛍光等・LDE電球の差を体感していただき、省エネルギーに関して興味を持ったと思います。
 - ・サポーターが考案したエコ工作作品を展示は、サポーターの工夫力や資質向上にもなり、来場者からたくさんの賞賛をいただきました。
 - ・工作のみならずゴミ減量や地球温暖化問題にも対応し出前講座を実施し、後日いただいたメッセージを少し紹介します。子どもたちの素直な意見を聞くと、環境教育の大切さを感じました。
 - ・そのまま捨てるのでなくリサイクル・エコの大切さを改めて感じました。
 - ・エコマークが付いているものを買って、紙パックやトレイはお店にもっていき温暖化をストップさせたい。
 - ・地球もこれから温暖化が進むと熱くなっていくとスーパーコンピューターは計算していましたが、ぼくはリサイクルなどして地球温暖化を防ぎたいと思います。
 - ・このままでは地球が危ないということが分かりました。私も地球温暖化を止めるために物を大切に長く使います。
 - ・1人1人の心がけが地球を救う薬なのかなと思った。

◆苦労した点

- ①イベントなどは休日でもあり、参加サポーターを集めるのが比較的容易でしたが、学校における出前講座では、参加するサポーターを集めるのが難しかった。
- ②対応人数の多い学校ではクラス一人に対応するので、負担も大きかった。反対に、我々も時間内に全員を仕上げる指導力UPにもつながりスキルも上達しました。
- ③廃棄物工作で材料等は比較的手に入りやすいものを選び、廃棄に関しても地球にやさしい方法を考慮して作成しました。
- ④イベント等たくさんの参加者がある場合事前準備が必要で、数名に負担がかかってしまった。
- ⑤外部へのPRが不十分で出前講座など数が少ないですが、口コミで広げて行こうと思います。
- ⑥手回し発電機による比較実験で、LDEを使ってオリジナルな比較実験機を作成するにあたり、抵抗などの技術的な試行錯誤がありましたが、プロセスはとても楽しかったです。

◆今後の課題・発展の方向性

- ①3年間で培ったノウハウは大きいものでした。イベントにおいてたくさんの参加者に対応していく技術も工夫もできました。また、サポーターのイベントスタッフ希望者が多く、とても機運がありよいことです。ですが今後は工作材料等やイベント参加費が必要になり、費用調達に工夫しないとなりません。工作参加者から参加費をいただくことも考えられますが、できるだけ工作参加者(子ども)からは徴収したくない気持ちは一杯です。
- ②市民から市民へ…という環境普及啓発ですが、市民の目線で今の地球環境問題を伝え、今できる身近なエコを少しずつ増やし、地球にやさしい行動の輪(環)を広げて未来につなげていきたいと思っています。

◆活動を終えての感想・意見等

- ①3年間引き続きマツダ財団から支援をいただき本当に感謝しています。団体内の道具や備品が増えただけでなく、みなさんが楽しんで活動ができましたし、たくさんの市民の皆さんへ環境保全の普及啓発ができました。ありがとうございました。
- ②紙トンボなど簡単な工作を通して「ゴミ減量や地球温暖化と私たちの暮らし」など課題は大きいけれど、子どもたちの感想を見たら目的を達成しているようです。エコ工作という身近なものですが、地球環境へ目を向けさせるきっかけ作りになったと思います。
- ③初年度購入した「紙すきセット」で、「はがき作り」を今年も実施できました。道具が活動の継続をしている一端だと思います。ありがとうございました。
- ④工夫する楽しさを知りました。また、一緒に作業するなど市民活動の楽しさを味わいました。
- ⑤マツダ財団を通していろいろな団体と交流することもできました。
- ⑥購入させていただいた道具や備品を大切に扱い、マツダ財団の皆さまのご意志を伝えていきたいと思っています。感謝いたします。
- ⑦地球温暖化の現象は少しずつ顕著になってきています。このままでは危ういとみんなが思い始めています。地球環境を良くしようとする私たちの思いをたくさんの市民の皆さんへ伝え、みんなで行っていきたくと思っています。